

富山県虻が島におけるヒジキの生育状況 (短報)

新井章吾・藤田大介・寺脇利信

(1997年3月25日受理)

Record of *Hizikia fusiformis* (Phaeophyceae, Fucales)
from Abuga Shima, Toyama Prefecture (Short Paper)

Shogo ARAI*¹⁾, Daisuke FUJITA*²⁾ and Toshinobu TERAWAKI*³⁾

Abstract

Hizikia fusiformis (HARVEY) OKAMURA was added to the marine algal flora of Toyama Prefecture, Sea of Japan. Only one plant (20cm high) was found at a depth of 20cm on a rocky coast of Abuga Shima, which is located 1.8 km off Sugata of Himi City, the west coast of Toyama Bay. The habitat was on the south side of the small island (180m long), which is sheltered from a dominant northwest wind in winter. The bed of *Sargassum hemiphylum*, however, showed the existence of comparatively high wave action.

Key words: Fucales, *Hizikia fusiformis*, Sea of Japan, Toyama Prefecture

ヒジキ *Hizikia fusiformis* (Harvey) Okamura は、本州太平洋沿岸では潮間帯に生育する代表的な褐藻 (ヒバマタ目ホンダワラ科) であるが、日本海沿岸では潮間帯があまり発達しないために少なく (斎藤 1970)、富山県の最近の海藻目録 (藤田・泉 1989) にも含まれていない。しかし、著者らは、1991年7月13日に富山県氷見市沖の虻が島周辺で潜水調査中、1株だけ生育していたのを発見することができた。

虻が島は氷見市委の東方1.8kmの沖合に浮かぶ長さ180mの瓢箪型の小さな島で、ヒジキはこの島の南岸の潮間帯に生育していた (Fig. 1)。藻長は15cmで、すべての葉が紡錘形であった (Fig. 2a)。なお、1株しか見つからなかったため、この場所からヒジキが絶滅しないように、株の1部だけを標本として採集した。その結果、翌年、ほぼ同じ時期にこの株のヒジキの生育を確認することができた。採集したヒジキは写真撮影後、藻長を測定し、さく葉標本を作成した。標本は富山県水産試験場で保管されている。

ヒジキは岩盤の傾斜が緩やかになった部分 (水深0.2m) に生育しており、ほぼ同じ水深に、ピリヒバ *Corallina pilulifera*, アナアオサ *Ulva pertusa*, フクロノリ *Colpomenia sinuosa*, カゴメノリ *Hydroclathrus clathrus* 及び無節サンゴモ類が認められ、すぐ下方 (水深0.3m) には、イソ

* 1) (株) 海藻研究所 (福岡県粕屋郡新宮町湊坂3-9-4, Marine Algae Research Co., Ltd., 3-9-4 Minatozaka, Shingu, Kasuya, Fukuoka 811-01)

* 2) 富山県水産試験場 (富山県滑川市高塚364, Toyama Prefectural Fisheries Research Institute, 364 Takatsuka, Namerikawa, Toyama, 936)

* 3) 水産庁南西海区水産研究所 (広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5, Nansei National Fisheries Research Institute, 2-17-5 Maruishi, Ohno, Saeki, Hiroshima, 739-04)

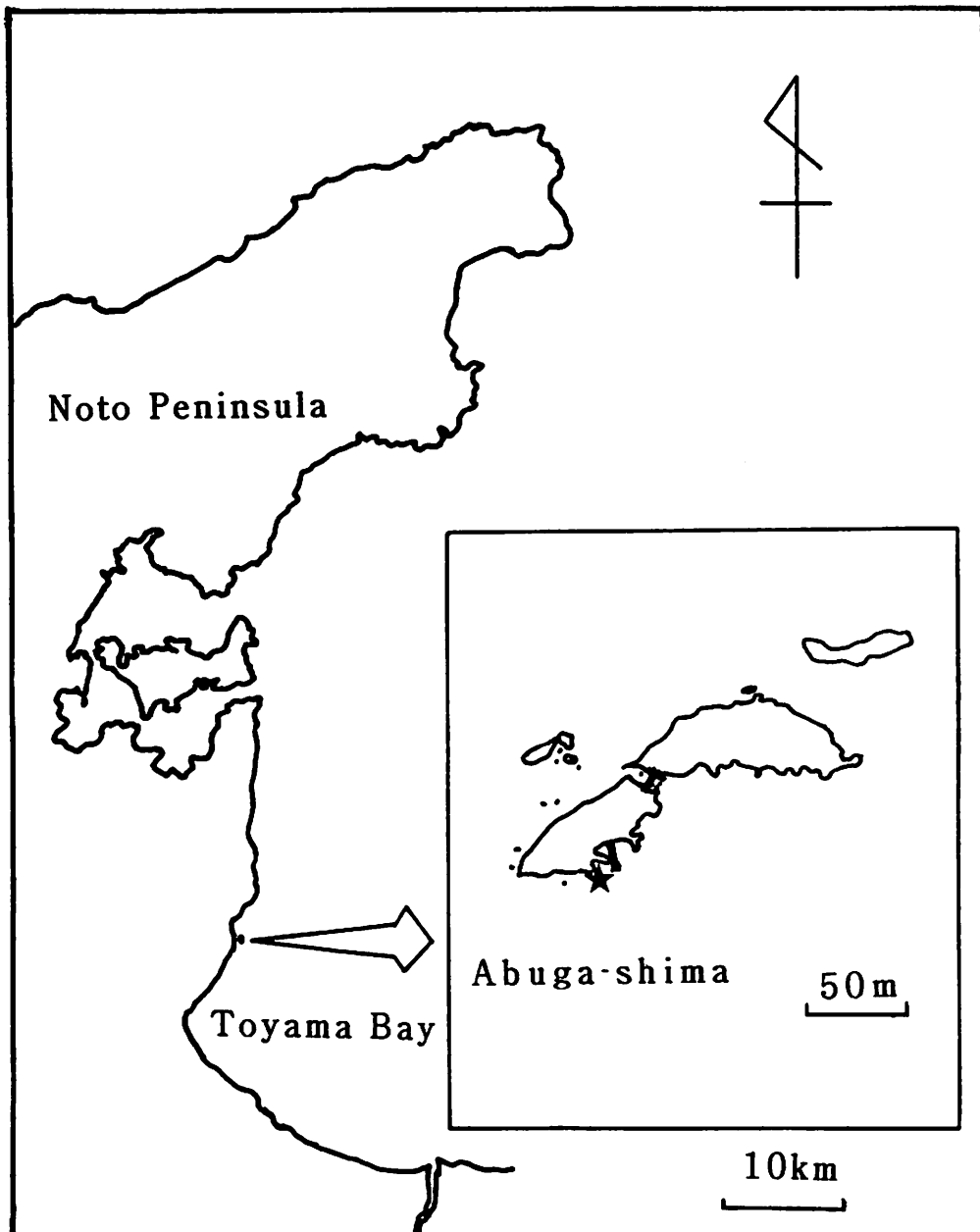


Fig. 1 Location of Abuga Shima and a spot (asterisk) where only one plant of *Hizikia fusiformis* was found.

モク *Sargassum hemiphyllum* の群落が認められた (Fig. 2b)。これらの海藻のうち、無節サンゴモ類は多年生、ヒジキ、ピリヒバ及びイソモクは基部のみが多年生、アナアオサ、フクロノリ及びカゴメノリは季節生である。なお、水深0.1m以浅には、海藻の生育が認められなかった。

ヒジキが生育していた島の南側は、冬季の北西の季節風による激しい波が直接当たらないと考えられる場所であった。しかし、ヒジキのすぐ下方で群落を形成していたイソモクについては、同じ日本海沿岸（若狭湾）において半球型石膏法を用いた実験観察により、比較的波当たりの強い場所に生育する種であることが示されている（太田・二宮 1990）。このことから、虻が島でヒジキが生育していた水深においても、適度な海水流動があり、これが干潮時における藻体の乾燥

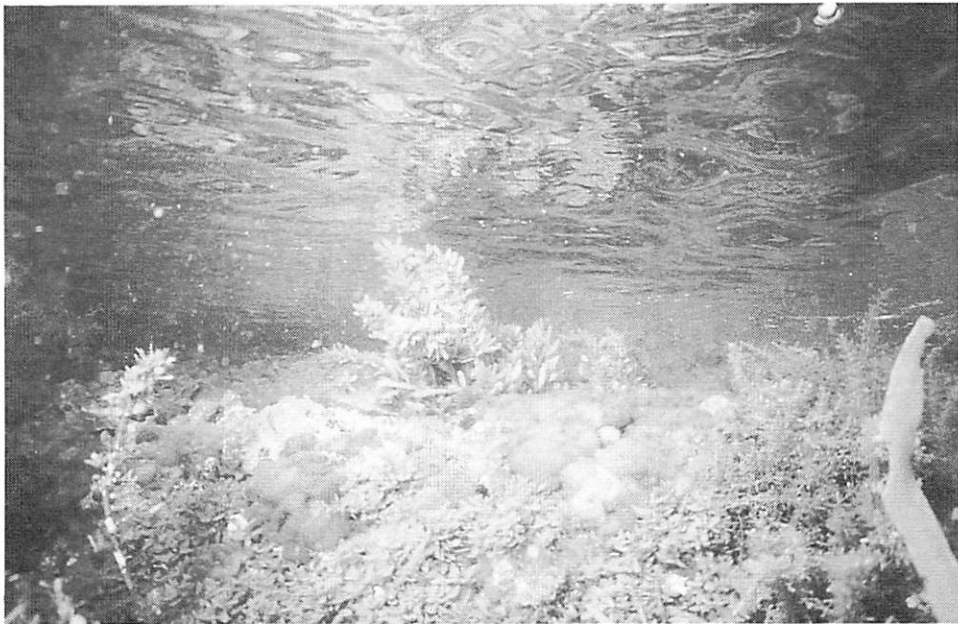
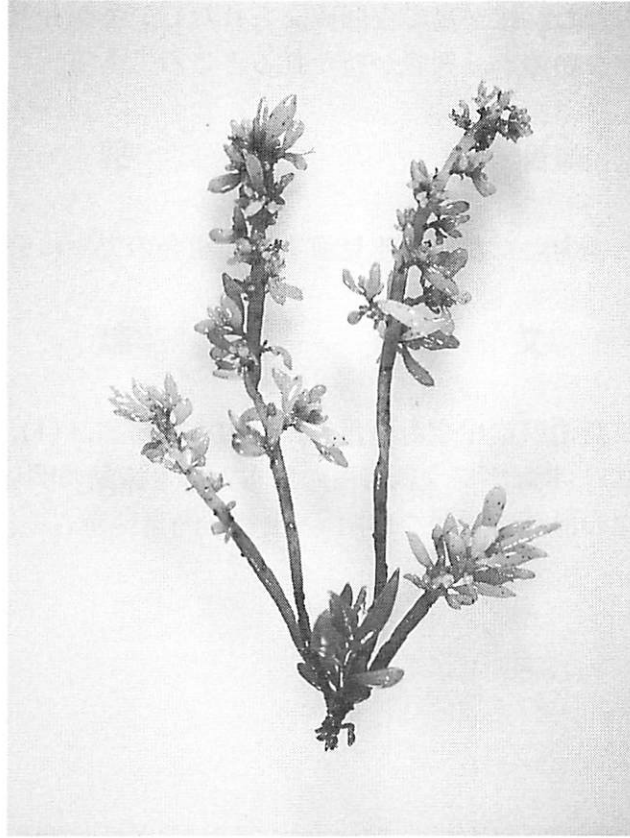


Fig. 2 *Hizikia fusiformis* found in Abuga Shima, Toyama Prefecture.
a. Plant of *Hizikia fusiformis* collected for herbarium.
b. Habitat of *Hizikia fusiformis* on the intertidal rocky slope of Abuga Shima. *H. fusiformis* as well as *Ulva*, *Colpomenia* and *Hydrocrathrus* grew at a depth of 0.2m just above a bed of *Sargassum hemiphyllum*.

を防いでいるものと考えられた。虻が島で今回確認されたヒジキが今後消失するのか分布を拡大するのか、付近に生育地がないのか、興味を持たれるところである。

謝 辞

調査に際してご理解、ご協力いただいた氷見漁業協同組合の方々に感謝します。

文 献

- 藤田大介・泉治夫 1989：富山県沿岸産海藻目録。富山水試研報，(1)，33-49。
太田雅隆・二宮早由子，1990：ホンダワラ属海藻の分布と海水流動の関係。藻類，38(2)，179-185。
斎藤 讓 1970：日本海沿岸の海藻が貧弱な理由 -生態学的見地から-。科学，40(10)，561-565。